

仲善支部 活動報告

1 研究主題

学びを人生や社会に生かそうとする生徒の育成

—主体的・対話的で深い学びを支える

メディア教育の推進—

2 はじめに

文部科学省は令和元年12月に児童・生徒向けに「1人1台」の学習用端末と高速・大容量通信を一体的に整備する構想を発表している。通信環境は2020年度までに、端末は小中学校で23年度までに実現を目指すとして、いよいよ1人1台の環境が目前に迫ってきた。

特に、主体的・対話的で深い学びを充実するためには、自己の考えを整理したり、表現したりするツールとして、ICT機器の活用が効果的であり、メディア部会では、その具体的な実践事例を収集・研究をし、23年度にはすべての教員がICTを活用した授業をすることで、生徒の情報活用能力や問題解決能力を育てたいと考えている。

3 研究内容

(1) 研究の過程

① 5月8日（水）

場所：善通寺市立西中学校

内容：研究組織の編成

研究内容の検討

② 7月26日（金）

場所：まんのう町立満濃中学校

内容：各校の実践事例研究・情報交換

(2) 実践事例

① 協働学習のツールとして利用

協働学習支援ソフトであるコラボノートは、ノート（模造紙）をネット上で共有するというものである。模造紙の上に生徒全員で書き込んだり、付箋を貼ったりするのと同じ状況をPCで行うことになる。こうした活動がインターネット上で行われ、リアルタイムで情報が更新され、全ての端末でそれを確認することができる。生徒は個々に1台の端末に向かうことになるが、電子黒板等に映し出すことによって、全体を黒板の方に集中させてまとめを行うこともできる。

・2年 職場体験学習のまとめ

職場体験学習のまとめとして、職場ごとに新聞を制作した。一人一台のiPadで作業は個々に進められるが、同じ用紙に書き込む感覚になるので、意見交換をしながら上手にまとめることができた。

・家庭科 ミシンの実習

コラボノートでミシンの使い方動画のリンク集を作り、授業で利用した。

一人一台のiPadを使用できるようにしたので、生徒は必要な時に必要な動画を見ながら作業を進め



ることができた。

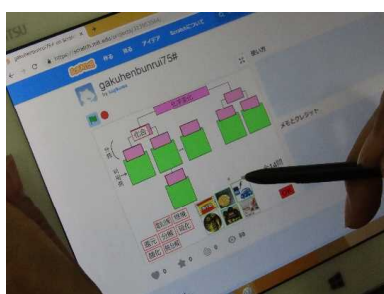
②ICTサポートとの教材づくりや実践

教育におけるICTの活用を推進するため、「ICTサポート」の支援を受けている。

各教科や担当教員からの「ICTの活用」のニーズをきちんと把握し、教材作成などの依頼や、教材作成について教員と話し合う場を積極的に持てるようにしている。

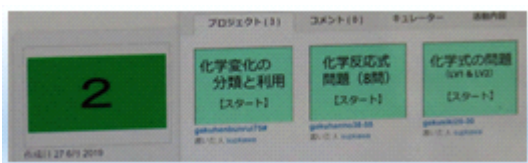
・理科 2年 化学変化

(化学変化の種類のカテゴリ分けを行う教材作成)



担当教員がおおまかな構想を考えてICTサポートと話し合っ
て教材を作成した。完成した教材を、

2年生の生徒がタブレットでこの教材を使って学習した。まとめ学習として最適の教材となった。他にも「原子の記号とその性質」「化学反応式を完成させよう」「化学反応アニメ」「4コマ漫画で化学反応式」という教材も作成した。



・理科 2年 雲の種類のカテゴリ分け

雲の写真撮影し、それらを名前と一致させる教材を作成した。最初に代表的な雲とその名前を一致させる教材を作成し、生徒に雲を見分ける目を養った。次に、実際に雲の写真撮影し、それらを分類させる教材を作成した。

③学校生活の中での活用

iPadは行事などでの写真・ビデオ撮影で多く使われている。iPadで撮影することで、

特に写真の共有が便利になり、有効に活用できている。職員室前に掲示される予定をiPadで撮影し、給食時にAppleTVで表示して生徒に予定を周知等、各教員が独自に使い方を考えて利用している。



多くのICT機器が導入されると、それらの管理も重要になってくる。そこで、管理ボードを設置し、教員が機器の使用計画を立てた上で実際に使用することができるように工夫している。

4 成果と課題

各学校とも、PCや大型モニタだけでなく、タブレットPCの導入や無線LAN環境の整備が進んでおり、ICT機器や使用できる環境が充実してきている。授業などにおいて、これらの機器を活用し、効果的な利用をすることで、生徒の学習意欲が向上していると思われる。また、生徒の様々な意見を集約・比較、思考の過程を記録するなど、授業の質の向上にもつながってきている。更なるメディア教育の推進を行うためにも、今回の実践事例のように、各学校で研究されてきたものをICT機器の操作に長けた人だけのものではなく、研究してきた資産として、広く共有し、活用していくなど、ソフト面での充実を図っていかねばならない。